

会 議 記 録

会議名称	令和５年度第３回通学路安全対策推進懇話会
日時	令和６年２月９日（金） 午前１０時００分～午前１１時３５分
場所	秦野市役所本庁舎３階講堂
出席者	別紙「出席者一覧」のとおり
次第	別紙「次第」のとおり

会議の内容は、次のとおりです。

事務局
教育部長

<開会>

<教育部長挨拶>

本日の会議では、安全対策実施の進捗状況について、また、通学路安全対策事業費予算の状況についてご確認いただく。来年度予算要求については、庁内で大変厳しい査定が行われたところであるが、限られた予算を効果的に活用し、着実に対策を進めていきたいと考えている。

また、本日は南地区での飛び出し防止板の設置に向けた動きや、本町中学校で開催された自転車安全教室、ヘルメット着用など、ソフト面での取り組みもご紹介するため、子どもたちの交通安全教育を所管しております教育指導課の関野課長にもご出席いただいている。

皆様の専門的な視点から、子どもたちの登下校の安全について忌憚ないご意見をいただきたい。

<議題１ 通学路整備要望への対応状況について>

～資料１、１－１、１－２について説明～

事務局
鈴木座長

路面標示関係の対策は比較的費用を抑えられる印象があったが、実施まで１年以上かかるものが多いのはなぜか。

建設管理課

法的規制ではないため、必要な幅員があれば道路管理者の判断でも実施することができ、警察との協議には時間はかからないが、財政面が主な要因となっている。

参考までに、グリーンベルトの平米単価は約２万円となって

	いるが、市の予算だけでは対応が難しく、国の交付金が必要になる。5年度の要望として挙げたものは6年度の交付金で申請して対応する流れとなるため、基本的には翌年度以降の対応となり時間を要している。 また、グリーンベルトは箇所によっては30センチ程度の細い幅のものを引く場合もあり、施工技術が必要なことから費用がかかる傾向がある。財政的な事情もあり、路側帯全てをグリーンには塗らず、車道側の30センチ程度の幅のみを塗り、費用を抑えることで施工距離を伸ばせるよう工夫している。
鈴木座長	有効な工夫ではあるが、視認性は下がるため、子どもたちへの指導や地域への周知も併せて必要であると感じる。
平井委員	注意を促す路面標示やカラー舗装を代替案で実施するのはどのような場合か。
事務局	例えば歩道設置や拡幅等の実現が難しい要望に対し、物理的に歩行空間を広げて歩行者の安全性を高めることは難しいため、代案として注意を促す路面標示を設置し、車両のスピードを下げることで安全性を高めている。
岩崎委員	自転車通行帯の設置を検討しているのは市内のどの箇所か。
事務局	堀川小学校付近の県道 706 号についての要望である。既に比較的広い歩道が整備されているため、その中に線を引くことで、規制ではないが、自転車通行部分と歩行者通行部分を分けることを検討しているもの。
岩崎委員	市内で自転車通学を認めている学校は。
事務局	本町中学校と西中学校である。当該箇所については県道のため、平塚土木事務所と協議しているが、自転車通行帯を設置することで逆に危険性が増す可能性もあるため、必ずしも令和 7 年度以降に実施が決まっているものではなく、周囲への影響も鑑みながら慎重に検討している。
岩崎委員	自転車通行帯があるのは現在市内では文化会館付近のみか。
建設管理課	縁石で物理的に区分けしているのは文化会館付近のみ。簡易的に青い舗装で区分けしている箇所もある。
神山委員	令和 3 年度は八街市での事故があったことから通学路の安

教育部長

全に対する世間の関心も高く、要望件数は 126 件と多かったが、その後は減少傾向で令和 5 年度は 51 件となっている。交付金申請の流れから速やかに実施できない対策もあると伺ったが、今後件数が更に減った場合、交付金の金額が下がる等デメリットがあれば、予め学校側に、視野を広げて遠慮なく要望を出した方がいい旨を伝えたほうがよいと思うがいかがか。

令和 3 年度のように細かい危険も見逃さないというスタンスで、可能な限り危険箇所を挙げて改善に取り組むのは良いことではあるが、件数が少なくなってきたことで徐々に市内の状況が改善されているという理解も得られており、件数がひとつの指標にもなっている。

建設管理課

国からの交付金内示率については現状 100%となっており、要望の件数によって内示率が下がるということはないが、本当に対策が必要な箇所なのか現地の状況を確認し検証を行った上で国に申請している結果、この内示率が成り立っているものと考えている。そのため、学校から要望を提出いただく段階でもある程度必要性を見極めて絞り込み、提出していただくよう御協力をお願いしたい。

～その他意見等なし～

<議題 2 通学路安全対策の実施に係る予算の状況について>

事務局

～資料 2 について説明～

神山委員

スクールガードリーダーとはどのような制度か

教育指導課

依頼した方に、主に下校時間帯に、危険と思われる箇所や学校から指定した場所に立っていただき、見守りをしていただくもの。その日ごとに見守る学区を変え、1 名で市内を回っていただいている。見守り隊のように自治会等が結成しているようなものではなく、警察 OB の個人の方に依頼しており、1 日 1 時間から 2 時間程度、交通安全だけでなく防犯面などからも見守っていただいている。

岩崎会長

グリーンベルトについて、確保した予算額から施工可能な距離が割り出せるようであれば、施工必要箇所の割り振りが容易

建設管理課

になるのでは。

概算では割り出せるが、箇所によりグリーンベルトの幅が違ふことやグリーンを塗る部分の下地改良に費用を要する場合もあり、正確さは低くなる。なお、令和5年度の要望に対するグリーンベルトの対応に係る予算は令和6年度に全て確保できているため、翌年度以降に積み残しとなる見込みの箇所はない。以前は要望年度の翌年度予算で確保しきれないケースもあったが、ここ2年間は国の施策としても重要視されてきており、全て確保できている。

岩崎委員

歩行者向け路面シールは非常に効果的だと思うが、1枚あたりの費用はどのくらいか。

地域安全課

4,000円程度で購入可能で比較的安価なため、要望があれば可能な限り年度内の対応に努めている。道路管理者で実施する路面標示等は翌年度以降の実施になる場合が多いため、それまでの暫定対策としても実施している。

岩崎委員

登下校中ではないが、帰宅後遊んでいる最中の飛び出しが一番危険と感じる。歩行者向け路面シールはそのような場面でも非常に有効なので、もっと活用すべきだと思う。シールの設置について道路交通法上の問題はないか。

地域安全課

規制等には当たらないため、警察との協議は不要で、市道であれば市、県道であれば県の道路管理者と相談の上設置している。

教育長

学校とPTAでは通学路を優先して要望を挙げて頂いているが、帰宅後の事故も多いため、通学路に含まれない箇所についても別途保護者等から危険箇所を吸い上げられるような枠組みがあってもよいと考える。

神山委員

グリーンベルトは国の関心が高く交付金も100%出ているので、引き続き要望の翌年度には実施できるよう、積極的に予算要求していただきたい。

また、昨今の物価高の影響もあり、予算が減ると実施できなくなる部分がより大きくなってしまうため、予算は極力削らず確保に努めていただくようお願いしたい。

建設管理課	実施した対策の維持管理については我々道路管理者の役目だが、塗り直し等については交付金の対象にならないため、財源確保が難しく、課題となっている。
鈴木座長	対策を実施するほど、修繕が必要な箇所も増えるため、財源的にも厳しくなるが、塗り方の工夫等で少しでも維持できるよう、検討を続けてしてほしい。
教育長	当懇話会を立ち上げて以降、様々な進展があったように感じている。関係団体の委員の皆様と市長部局も含めた職員が会議に参加し、同じ問題意識を持って課題解決に取り組むという部分に当懇話会の大きな意義を感じる。 ～その他意見等なし～ <議題 3 ア 南地区における飛び出し防止板設置に向けた動きについて>
事務局	～次のとおり口頭で説明～ ・地域で住みよいまち、住みたいまちづくりを目指して活動している南はだの村七福神と鶴亀めぐりの会と出雲大社相模分祠が地区内の危険個所に飛び出し防止板を設置する活動を行っている。 ・昨年 12 月 4 日に自治会、南小学校及び南が丘小学校 PTA、秦野警察署、秦野市教育委員会が呼ばれ、設置に関する会議が開催された。 ・出雲大社周辺で 8 年前に飛び出し防止板を設置したところ好評であったことが今回の取り組みの発端とのこと。 ・費用は「南はだの村七福神と鶴亀めぐりの会」が負担するが、新入生の安全を守りたいという趣旨で、飛び出し防止板の色塗りを南小学校及び南が丘小学校にお願いしたいとの意向が示された。 ・両校とも 6 年生が取り組む予定としている。 ・作成枚数は 30 枚の予定であり、児童数の関係から南小学校 20 枚、南が丘小学校 10 枚を目安に設置場所を検討中。 ・鈴木座長にも設置場所に関する助言等をいただく予定。 ・教育委員会としては、民間の自主的な取り組みに専門的な助

	言を加えることで、設置に対する裏付けとなるほか、設置効果等の把握について期待している。 ・設置団体の意向としては、まずは地元の南地区への設置として枚数を増やし、今後市内の他地区に広げることなども考えていきたいとのこと。
鈴木座長	飛び出し防止板は主に車両に向けて注意を促すものだが、製作活動を通じて児童が看板に愛着を持つことで、児童の交通安全意識向上にも繋がる良い取り組みだと感じる。
教育長	児童生徒への意識付けの効果は大いにあると思う。まだ全国的に広まっているものではないため、効果の分析等で鈴木座長にも御協力いただきたいと考えている。
鈴木座長	いかに関心を持ってもらえるかが重要で、関心の高さがその後の行動に大きく影響してくるため、是非児童生徒や地域を巻き込んで設置を進めていただきたい。
教育長	新１年生が入学する前の３月中に、６年生が作ったものが設置されることで、新入生の意識付け繋がるのではないかと考えている。
神山委員	飛び出し防止板のデザインは、赤のＴシャツに黄色のズボンの男の子で視認性の高い配色のものが基本となっているが、南が丘小学校での製作に当たっては自由な発想で塗ってもらう方針としており、設置箇所については各地区委員から意見を伺い協議している。設置に当たっては車両から見やすい位置というだけでなく、看板の影に小さい子どもが隠れてしまうような死角を作らないこと、車両の通行の妨げにならない位置であること等にも配慮していただきたい。 ～その他意見等なし～ <議題３イ Future Cycle Projectについて>
教育長	自転車通学を認めている本町中と西中では、自転車通学時に指定ヘルメットを着用することとしているが、現在デザイン等の自由化に向けて検討を進めている。その調査の中で、南伊豆町と浜松市など徒歩通学においてもヘルメットの着用を義務化している市町村があることがわかった。本市では、教育委員会

教育指導課

で費用を負担し、上幼稚園において防災用ヘルメット（防災頭巾）を着用しての登園を検証的に実施しているが、当議題とも関連があるので、このような動きについてもご意見をいただきたい。

～資料３について説明～

上幼稚園で導入している防災用ヘルメットについては、帽子の内側に耐衝撃プロテクターが付いており、日本防災協会が定める防災頭巾の衝撃吸収基準の約３倍の性能を備えている。防災性もあり、園帽に近いデザインとなっている。防災教育を所管している教育研究所が調達したもので、価格は約５,０００円程度。上幼稚園の園児数は８名で、全員に配付して使用していただいている。

教育部長

様々なタイプの防災頭巾があるが、強度があり、日よけも付いていてコンパクトなものを選定した。園児たちが小学校に進学するのに合わせ、徐々に小学校にも広げていきたいと考えている。

平井委員

熱中症対策の観点から、夏場は帽子を被るよう児童に言い聞かせているが、実践する児童は少ない。被ることについて学校としてどこまで指導すべきかが難しいと感じる。

神山委員

コンパクトで通気性も良さそうだが、あくまでも有事の際に使うものという印象があるので、低学年は問題ないかもしれないが、高学年になるにつれて日ごろから使うことに抵抗が出てくる懸念がある。

平井委員

平塚市では１年生から６年生まで通学時に視認性の高い黄色い帽子を被るようにしているが、当たり前の光景として浸透しており、抵抗感があまりないように感じる。

鈴木座長

自転車乗車時のヘルメット着用も、まだ大人に浸透していないため子ども達も被るのに抵抗があるのだと思う。自由化によって子どもが自主的に被りたいと思えるヘルメットを使えるようになれば良い流れができると思う。

また、自転車交通安全教室の件で、歩行者をよけての走行練習とあったが、自転車のルールとしては車道走行が基本である

事務局

ということのお話はあったか。

当日は神奈川県警察の方から、様々な走行場面に応じたクイズ形式での説明があり、車道走行中に注意すべき点等についても説明があった。歩行者をよけての走行練習というのは、運転テクニック面でのお話であったと思われる。

鈴木座長

小学生は歩道を走行しても良いが、中学生からは車道通行にルールが変わるタイミングとなるので、その点は強調して伝えるべき。

また、車道走行中バランスを崩したら左側に倒れるようにするなど、万が一の際に被害を最小限にする手段についても伝えながら、ぜひ継続的に続けてほしい。警察の方の指導も重要だが、プロの方に教えてもらえる機会ということで、少し違った受け取り方で新しい学びになったのでは。

古谷委員

企業と協働しての自転車交通安全教室についての話があったが、交通安全協会でも学校に対して交通安全教室を開催しているので、一緒にできる部分があれば、地域全体で交通安全に取り組むという意味でも是非協力したいと考えている。

また、以前の懇話会でも問題提起したが、通学時間帯に大規模災害が発生した場合の見守りボランティアの対応について、行政から指導していただく機会があればありがたいが、いかがか。

事務局

災害発生時の現場位置や天候等、様々な状況により対応が変わる可能性があり、一律に誘導経路等を設定することは困難だが、発災時対応への考え方はある程度整理する必要があると考えている。

神山委員

見守りに立つ箇所周辺の避難場所の位置や、地域の特性を把握した上で見守りしていただければ、発災時もある程度落ち着いて誘導の判断ができると思う。学校側や行政側から、一律に誘導先を指定することはできないと思うので、状況に合わせて判断していただくべきと考える。

平井委員

発災時の建物の倒壊具合や道路の状況により安全経路は変わるため、学校では通学中に被災した場合の避難経路等につい

鈴木座長

て、一律の指導はしていない。渋沢小学校においては、自分の命を守るためにどう行動すればいいか、わからないことは家庭や教職員に聞きながら、自分で考える力を育てられるよう指導している。

避難経路を何通りか知っておくことで、発災時に臨機応変に対応できるので、その辺りの情報はまとめておいても良いと思う。

～その他意見等なし～

＜通学路のカラー舗装が小学生の歩行位置に及ぼす影響に関する研究について＞

東海大学生

～資料に沿って説明～

神山委員

興味深い発表だったが、同じ箇所でもグリーンを引く前と後で子どもの歩き方にどう影響が出るのか、また、学校に近く登校班が集中する箇所と遠い箇所では、子どもの歩き方に違いはあるのか、という点についても分析し、その結果どのようなグリーンの引き方が理想的なのかまで提案する構成だとより良かったように思う。例えば学校付近ほどグリーンの幅を広くとる等の提案があっても面白かった。

建設管理課

下校時の調査実施時間帯について、時間帯が2通り設定されているのは、低学年と高学年に分けて設定しているためか。

東海大学生

調査を実施した南小学校と末広小学校で日付が違い、下校時刻に変動があったため。どちらも一斉下校の日程で調査している。

建設管理課

グリーンベルト施工に当たっては、まずは車道として幅員4メートルを確保し、残った部分を路側帯としてグリーンを塗っているため、学校付近ほど広げるということは道路構造上難しい。登校班が集中して2列3列になりがちな箇所については、学校や家庭での指導で御対応いただけるとありがたい。

平井委員

指導には努めているものの同じ時間帯に200～300人が集中するため、混雑が解消するまで待たせるにしても更に次の登校班が来てしまい、なかなか整理は難しいと感じている。下校時同様に登校班をなくした場合、混雑はある程度解消され则认为

建設管理課

られるが、分析の中にもあったように、下校時はグリーンベルトのはみ出し率が高いことから、登校時に同様のはみ出し率となり事故に繋がる可能性も出てくる。

出発する地区ごとに学校到着時間をずらすことはできないか。

平井委員

保護者からも同様の提案を受けることがあるが、班ごとの所要時間や人数など大変複雑なため、整理することが困難である。また、本来登校時間等を決める役割は学校ではなく各地区にあり、登校班自体もあくまで地域の自主的な団体という位置付けになる。そのため、保護者等地域が主体となって出発時間を組み立てることも可能ではあるが、困難と思われる。

神山委員

南が丘小学校では、児童が少ない地域があり、登校班に組み入れるために遠回りをして集合場所に集まる等、反対に危険度が増す可能性があるところから、登校班をなくそうかという議論も生まれている。この場合デメリットとしては、登校時間帯にばらつきが生まれるため時間帯を設定しての見守りが難しくなることが挙げられる。

平井委員

以前勤務していた平塚市の学校では、学期の始めと終わりのみ登校班が組まれ、その他は自由となっていたが、それが原因で事故が起きているという印象はなかったため、登校班の廃止は可能ではあると考える。しかし、秦野市では以前鶴巻小学校が登校班を廃止したが復活させている経緯もあり、一定の必要性も見えて取れる。

～その他意見等なし～

事務局

～連絡事項～

2月15日（木）開催の自治会連合会役員会において、秦野市通学路見守りサポーター制度の周知依頼をさせていただくことを予定している。

<閉会>